

平成 30 年 度

事 業 計 画 書
収 支 予 算 書

一般財団法人 札幌産業流通振興協会

一般財団法人 札幌産業流通振興協会

平成 30 年度事業計画

昭和 59 年 6 月、各界の期待を担ってオープンしたアクセスサッポロ（札幌流通総合会館）は、今年で 34 年目を迎えました。

この間、日本経済とそれを取り巻く環境の激しい変動を繰り返す中であって、総合展示場としての機能を発揮し、札幌市を中心とした北海道の流通・経済の発展に寄与する拠点としての役割を果たしてきました。

今後も当協会は、地場産業の振興と流通経済の発展という目的達成に貢献できるよう、機能の充実と関係機関団体との連携を図りながら、産業技術、情報発信、経済交流の拠点としてますます活用頂ける施設となるため、利便性の向上を図り、顧客満足度の増進に努めます。

1 産業流通振興事業

（１）大展示場の使用日数は 80%以上を目標とし、利用者の継続利用に努めるとともに新規の展示会、見本市等の開催及び誘致活動を推進

・札幌市をはじめ、日本イベント産業振興協会、全国展示場連絡協議会等の関係機関からの各種イベント情報の収集、情報交換、連携を行い、首都圏で開催中の展示会の地方開催誘致活動を強化するなど利用促進を図る。

・市内の類似施設（札幌ドーム、サッポロファクトリーホール等）との情報交換を行い、施設間連携強化を図る。

・マスメディア等との共催による新規イベント構築。

(2) 各種イベント開催の相談業務及びイベントのサポートを推進

- ・相乗効果を目的とした異業種催事の同時開催の提案と仲介役を担うことにより、主催者の経費負担の縮小と来場者増のサポートを行う。
- ・より良いサービス提供を目指すため、他会場の展示会視察など知識の向上に努め、主催者への情報、提案などを強化するための職員実務研修、外部での研修会参加を機会に応じて行うことによりノウハウ・専門知識の向上を図る。
- ・イベント・コンベンション雑誌、当協会ホームページ、広報誌アクセスサポートニュース等への催事開催情報掲載。
- ・イベント開催に関する各種申請業務のアドバイスとサポートを行う。

(3) 産業流通振興を目的とした異業種交流会（アクセス交流会）を開催

(年2回開催、各回 約200人)

- ・当協会利用者を中心に各業界の皆様のご支援を頂き、平成6年初開催以来アクセス交流会も現在47回を数え、平成30年度も情報交換と業界活性化の場を提供する場として開催。

(4) 展示会等の主催・共催

- ・市民生活向上のため情報提供、産業振興に寄与することを目的に公益性の高いイベントを主催・共催する。

今年度実施する予定の詳細は下記のとおり。

① イベントランド北海道 2018 【6月開催】

道内で新たなイベントを企画・実施しようとしている企業を来場対象としたイベントアトラクション、ソフトを紹介する総合展示会。

② バイヤーズマーケット北海道 2018 【7月開催】

北海道と道外の様々な企業が出展し、そこに北海道と道外のバイヤーが来場し、商談を重視したバイヤーデーと販売を重視したユーザーデーの2部構成で新たな交流とビジネスチャンスを創出するイベント。

③ こどものまち ミニさっぽろ 2018 【9月開催】

小学生を対象にした、働くことの楽しさや大切さ、世の中の仕組みなどを学ぶことができる職業体験イベント。札幌市、関係団体との共催で開催。

④ いきいき健康・福祉フェア 2018 【10月開催】

高齢者や障がいがある方々も元気に楽しく活躍できる社会の提案と北海道民が健康で安心して暮らせる地域福祉の実現にむけた取り組みを紹介するフェアを、国・道・市・福祉関連団体・マスコミとの共催で開催。

⑤ 北のアメ横ーさっぽろ 2018 【11月開催】

道産品の認知度を高めるとともに、消費拡大を図る北海道各地の農水畜産品や加工品など魅力ある地域特産品を展示販売することで、地域経済の活性化を図るイベントとして開催。

2 施設管理、運營業務

(1) 会館の維持管理のため、建物の修繕及び設備の更新を計画的に実施

3 広報、PR 活動

(1) 広報誌「アクセスサッポロニュース」を発行
(毎月1日発行、2,400部)

(2) 当協会ホームページを通じ、開催イベントの案内、施設の利用案内などを掲載

一般財団法人 札幌産業流通振興協会

平成 30 年度 収支予算書

平成30年度収支予算書（正味財産増減計算書）

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（単位：円）

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	【 100,000 】	【 100,000 】	【 0 】
事業収益	【 236,000,000 】	【 230,000,000 】	【 6,000,000 】
受取負担金	【 21,000,000 】	【 21,000,000 】	【 0 】
雑収益	【 600,000 】	【 600,000 】	【 0 】
経常収益計	257,700,000	251,700,000	6,000,000
(2) 経常費用			
事業費	【 203,140,000 】	【 200,590,000 】	【 2,550,000 】
管理費	【 84,060,000 】	【 85,110,000 】	【 △ 1,050,000 】
経常費用計	287,200,000	285,700,000	1,500,000
当期経常増減額	△ 29,500,000	△ 34,000,000	4,500,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引き前当期一般正味財産増減額	△ 29,500,000	△ 34,000,000	4,500,000
当期一般正味財産増減額	△ 29,500,000	△ 34,000,000	4,500,000
一般正味財産期首残高	1,340,000,000	1,340,000,000	0
一般正味財産期末残高	1,310,500,000	1,306,000,000	4,500,000
II 指定正味財産増減の部			
指定正味財産期首残高	50,000,000	50,000,000	0
指定正味財産期末残高	50,000,000	50,000,000	0
III 正味財産期末残高	1,360,500,000	1,356,000,000	4,500,000

平成30年度 収支予算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(経常収益及び経常費用等予算書)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	100,000	100,000	0
事業収益	236,000,000	230,000,000	6,000,000
受取負担金	21,000,000	21,000,000	0
雑収益	600,000	600,000	0
経常収益計	257,700,000	251,700,000	6,000,000
(2) 経常費用			
事業費	203,140,000	200,590,000	2,550,000
管理費	84,060,000	85,110,000	△ 1,050,000
経常費用計	287,200,000	285,700,000	1,500,000
当期経常増減額	△ 29,500,000	△ 34,000,000	4,500,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 29,500,000	△ 34,000,000	4,500,000

(投資活動予算書)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
① 特定資産取崩収入			
修繕引当資産取崩収入	81,000,000	50,000,000	31,000,000
投資活動収入計	81,000,000	50,000,000	31,000,000
2. 投資活動支出			
① 特定資産取得支出			
退職給付引当資産取得支出	2,500,000	2,000,000	500,000
② 固定資産取得支出			
建物建設支出	70,000,000	44,000,000	26,000,000
構築物建設支出	10,000,000	5,000,000	5,000,000
什器備品購入支出	1,000,000	1,000,000	0
投資活動支出	83,500,000	52,000,000	31,500,000
投資活動収支差額	△ 2,500,000	△ 2,000,000	△ 500,000